

脳神経外科 『脊椎脊髄センター』開設のお知らせ

2024年4月より、名古屋セントラル病院 脳神経外科に『脊椎脊髄センター』を開設しました。

脊椎疾患は骨だけではなく神経にも影響して、しびれや痛み、筋力の低下など様々な症状を呈します。そのため、どの科に受診すべきか迷われたり、受診のタイミングが遅れたりするうちに、神経の症状が悪くなってしまうことが少なくありません。また、患者様にとっても医師にとっても診断が難しい領域であり、手足のしびれなどの症状があっても、まずは脳の心配をされて、原因が脊椎疾患であると患者様自身が気づかれないこともあります。このような状況を改善して「患者様に適切な治療を受けて頂きたい」という思いで、当院に『脊椎脊髄センター』を開設しました。

(脳神経外科 副医長 松尾 衛)

【脳神経外科医による脊椎脊髄外科】

「脳外科医」と聞くと、脳だけの治療をしていると思われるのですが、脊髄・末梢神経を含めた神経全般と、それに付属する血管や脊椎を扱っています。欧米のドラマや映画で脳外科医が脊髄の手術を行っているシーンがありますが、欧米では脳神経外科医の手術の7-8割が脊椎脊髄疾患と多くを占めています。日本でも、脊椎脊髄を専門とする脳神経外科医が増えてきており、脳と脊髄を守る神経系総合医として診療にあたっております。



私たち脳神経外科医の特徴として、脳を含めた神経症状を一括して診察し診断を行うため、脳の疾患を心配されている患者様にも受診していただけます。また、頭蓋内手術や血管吻合術など、1mmにも満たない病変の顕微鏡手術で培った技術を生かして、脊髄に愛護的かつ確実な神経減圧の手術が可能です。

【連携医療機関の先生方へ】

首や腰の痛み、手足のしびれや筋力低下でお困りの患者様がいらっしゃいましたら、ご紹介いただけますと幸いです。また、当院『脊椎脊髄センター』では、紹介状が無くても受診可能ですので、お気軽に当院専門外来にてご相談下さい。

当センターでは近年増加傾向にある脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術や腰椎椎間板ヘルニアに対するヘルニコア（酵素注入療法）をはじめ、脊椎除圧術・固定術、頸椎人工椎間板置換術など頭蓋頸椎から腰仙椎にかけて幅広く対応いたします。

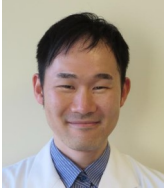
地域の方々が安心して暮らせる医療環境の充実のため、その目標に向かって邁進して参りますので、今後とも何卒宜しくお願ひ申し上げます。

【相談窓口】 地域・法人連携室 052-452-3196（平日8:30～17:00）

新任医師のご紹介

4月1日付で医師5名・専攻医1名が新たに加わりましたので、ご紹介いたします。

医 師



循環器内科 副医長 吉田 聡哉

患者様一人一人のお考えや希望を尊重しつつ、最適な医療を提供していきたいと考えています。誠意を持って診療に務めさせていただきますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。ご不明な点があればいつでもお声がけください。



脳神経内科 主任医長 山岡 朗子

患者さんには、丁寧な診察とわかりやすい説明を心がけています。他科の医師やスタッフと協力して、より良い医療を提供できるように努めてまいります。お気軽にご相談ください。よろしくお願いいたします。



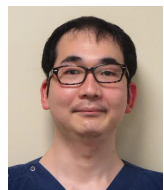
整形外科 医長 飯田 浩貴

はじめまして。名古屋大学医学部附属病院より参りました。整形外科に限った話ではありませんが、病名が同じでも当然ながら患者さん一人一人で症状が異なり、病態に対する認識や治療への期待度も異なります。画一的な治療でなく、患者さんの希望と病態・背景にmatchした治療を提供できるよう心がけております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



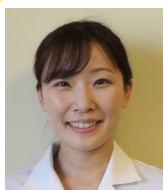
脳神経外科 副医長 松尾 衛

私は脳神経外科の領域の中で特に脊椎脊髄外科を専門にしております。首や腰の痛み、手足のしびれや筋力の低下でお悩みでしたら、どうぞ遠慮なくご相談ください。少しでも患者さんの心配が軽減できるように、わかりやすい説明を心掛け、一人一人に合った最善の治療を提供いたします。



泌尿器科 医師 武内 祐史郎

患者様としっかりとコミュニケーションをとったうえで、必要時には他の科の医師やスタッフと連携を行うことで、その方にとってより良い医療を提供できるよう精進していきたいと思っております。これからよろしくお願い致します。



消化器内科 専攻医 野村 真希

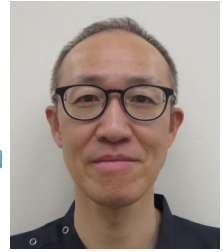
患者さんやご家族とコミュニケーションを取り、ご不安な気持ちに寄り添いながら、最適の医療を行っていきたくと思います。また、医療スタッフ同士でもコミュニケーションをしっかりと取り、協力してより良い医療を提供できるように日々努力して参ります。よろしくお願い致します。

転出者のご報告

循環器内科 医長 太田 智之
脳神経内科 医師 山本 宗隆

整形外科 主任医長 鈴木 喜貴

第119回 病診連携勉強会 最新の乳癌治療 薬物療法を中心に

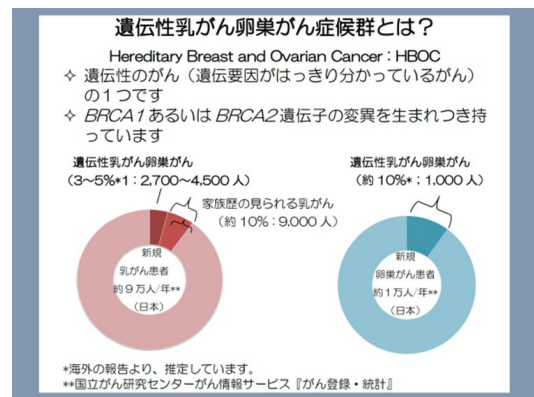


こばやし ひろのぶ
乳腺・内分泌外科 科長 小林 宏暢

2023年12月19日(火)、病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

最新の乳癌治療 薬物療法を中心に

HBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)は乳癌患者の約5%に認められ、乳癌や卵巣癌になる可能性が高い。原因はBRCA1または2の異常で、1/2の確率で親から子へ遺伝する。2020年からHBOCに関する保険診療が開始となり、乳癌に罹患した方で若年発症や家族歴のある方はBRCA検査に保険が適用できるようになった。またHBOCと診断されれば、乳癌を発症する前に乳房切除する手術(予防的乳房切除)も保険で行えるようになった。HBOC患者の乳癌検診は、より感度の高いMRI検査でスクリーニングすることが推奨されている。



(図1)

乳癌の薬物療法は常に進歩を続けており、乳癌手術後の補助療法は乳癌の生存率改善に非常に大きな役割を果たしている。近年は治療成績を高めるためにどの薬剤を加えるか(Escalation)以外に、治療効果を損なうことなくいかに治療を減らすか(De-escalation)も研究されている。乳癌術後のホルモン療法治療期間は長らく5年間でしたが、現在では7-10年間に延長された。術後の化学療法選択はTNM分類による解剖学的特徴(再発の危険度)よりも、ホルモン受容体有無やHER2発現の有無など生物学的特徴(治療効果)を考慮して選択する。ホルモン受容体有無とHER2発現の有無による分類は、サブタイプ分類と呼ばれ、Luminal A, Luminal-HER2, HER2陽性, トリプルネガティブの4つに分類され、治療方針もかなり異なる。Luminal Aはホルモン剤がよく効き、予後は良好だが化学療法が必要な症例もあり、遺伝子プロファイル検査(Oncotype DX)を用いて化学療法適応について判定している。Luminal-HER2, HER2陽性はともに抗HER2薬の適応で、かなり治療効果が期待できる。トリプルネガティブはホルモン剤も抗HER2薬も効果がなく、最も予後が不良である。

ホルモン受容体	HER2	サブタイプ	Stage I - III 乳がん	Stage IV・再発乳がん
陽性	陰性	ルミナル	内分泌療法 ± 化学療法	内分泌療法 ± CDK4/6 i or 化学療法
	陽性	ルミナルHER2	内分泌療法 + 化学療法 + 抗HER2薬	(内分泌療法) or 化学療法 + 抗HER2薬
陰性	陽性	HER2	化学療法 + 抗HER2薬	化学療法 + 抗HER2薬
	陰性	トリプルネガティブ	化学療法	化学療法 ± 免疫チェックポイント阻害薬

(図2)

術前薬物療法も行われることがあり、治療が奏効すれば腫瘍の完全消失(Complete Response)となる場合もある。この場合の予後はかなり良好であるが、現在は手術を回避することは推奨されていない。乳癌術後は遠隔転移の早期発見で予後改善することは困難なため、症状に合わせて検査を行いながらフォローする。

乳癌でお困りの患者様がいらっしゃいましたら、ぜひ当院へご紹介いただきますよう、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

Topics

5年ぶりに名古屋マリオットアソシアホテルで勉強会を開催

病診連携勉強会を5年ぶりに名古屋マリオットアソシアホテルで開催いたしました(2024.3.9)。『いいだクリニック』の飯田 昌幸先生と、当院からは院長の中尾にご講演いただきました。勉強会後の意見交換会では、先生方同士が活発にコミュニケーションをとられ、交流を深める有意義な時間となりました。今後、更に地域の医療機関様との連携に力を入れ、ますます地域医療に貢献して参ります。よろしくお願い申し上げます。



4月1日付で新入職員を迎えました



4月1日より、研修医5名・看護師20名・診療放射線技師1名の計26名が当院に入職し、新社会人としてスタートを切りました。いちはやく戦力となれるよう日々の業務に取り組み、地域医療への貢献を目指して参ります。これからどうぞ宜しくお願い申し上げます。

Events

第122回病診連携勉強会

日時：2024年6月18日(火) 14:00～

会場：名古屋セントラル病院 2階 多目的ホール

テーマ：最近の気管支喘息治療

講師：呼吸器内科 医長 富田 洋樹

日本医師会生涯教育講座 カリキュラムコード：79 (気管支喘息)

■病院理念

- 1 安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の医療
- 2 健全な病院経営による地域社会への貢献
- 3 協力、責任感、積極性にあふれた活力ある病院づくり

■ビジョン

- 1 地域の中核病院として、常に先進的で専門的、良質で効率的な急性期医療を提供する
- 2 医学的根拠に基づく医療を確実に実践し、部門や職種を超えた安心で信頼感のあるチーム医療を提供する
- 3 充実した救急医療と予防医療を提供する
- 4 地域の医療機関と綿密に連携し、受診される皆さまに最適な医療環境を提供する
- 5 各々が医の倫理を徹底し、日々研鑽するとともに医療人の育成に努め、信頼され選ばれる病院をつくる

編集：名古屋セントラル病院 地域・法人連携室

〒453-0801 名古屋市中村区太閤三丁目7番7号 TEL:052-452-3165 (代表) FAX:052-452-3182

E-mail:hospital@jr-central.co.jp

URL:https://nagoya-central-hospital.com